

昨年夏に青葉台へ越してきて以来、HANDSのボランティアとしてお世話になっています。去る3月、CMIP(事務所、活動地、奨学生が住む村々と大学女子寮)、COWHED(伝統の家と事務所)、PFP(スララ事務所とブラクール村)、PIHS事務所を訪問しました。

初日は、CMIPディレクターのエドウィン神父の運転でアトモロック村とサムラング村に向かいました。サムラングでは、メホラダ氏による土地売却申請は現在も止まったままという話でしたが、鉱山開発会社SMIは試掘の準備を着々と進めているようです。本来は鉱山法で必要とされている住民の合意を得ないまま、バランガイ行政の同意を取り付けている会社に対する不信感が募っています。住民のルビナさんは「問題が山積みです。試掘はとつても怖い。私も家族も鉱山開発は反対です。バランガイの栄養改善プログラムで働いていますが、SMI社がスポンサーだから仕事とは言え本当は嫌」と話していました。古くから精霊信仰を持つビラーンの人々は、山に入る時には山の精霊に挨拶し、

木を切る時には木の精霊に許しを請うてから斧を立てるそうです。精霊を怒らせると災害が起きる。自然を人間の好きなままに消費することへの危機感を、身を持って知っているのではないでしょうか。

かつてウェスタンマイニング社で4年働いていた一人は今では反対派となり、内部にいたからわかる鉱山会社のやり方について他の村人たちにも警告を発しています。こうした中、エドウィン神父も市内の環境NGO数団体に声をかけ、3月から住民対象のセミナーを開催しています。第1回は村人がグループに分かれて、山と自然に恵まれた村の様子(村にある様々なものや生態系)を模造紙に書き出しながら話し合いました。次回は、鉱山開発被害についてのビデオを環境NGOと一緒に観て、



ミンダナオ国立大学の女子寮で奨学生たちと鈴木さん

村の自然と暮らしが今後どのような可能性があるか話し合う予定です。

SMI社は、スイスの鉱山資源大企業が最大の外資ですが、地元の誰がどのくらい出資しているのかよくわからず、ミンダナオの鉱山開発の利害関係はややこしいという話がうなずけます。それでも、鉱山開発予算そのものは州知事が管理しておりいい兆候だ、とエドウィン神父が説明してくれました。彼の夢は、ビラーンの若い人たちの中から弁護士になる人材が出てくることだそうです。あこがれの職業は「学校の先生」や「神父」という村の子どもたちにとって「弁護士」という職業はなじみがないようですが、NGOで活動する若い弁護士や、土地問題解決で活躍する弁護士の姿を目にしたビラーンの子どもたちが「将来は弁護士になりたい」と話す日もそう遠くはないかもしれません。

滞在中はたくさんの人たちに出会いました。帰国してからも、今日はあの子は、あの人はどうしているかしら、と祈るような気持ちで思い出しています。

あつという間の1年間

理事 前田 恵

1年前の4月、新しい事務所の名を「青葉台事務所」にするか「青葉台駅前事務所」とするか、話し合ったことが懐かしく思われます。この1年間、ゆっくりと備品を買い整えながら事務局作業を進めてきました。あれこれ必要なものを感じた方が持ち寄って下さり、家庭的な雰囲気の部屋が出来上がりました。

悲しいかな英語もパソコンもできない私は、秋口から本格的に月、木の週2回と決めて留守番おばさんをしています。暑さ、寒さ厳しい部屋に電気カーペットが寄贈され、これから小さめの冷蔵庫も寄付いただける予定です。この夏は冷たいもので喉を潤せるでしょう。昨年植えたパンジーは、この寒暖を乗り越えて鉢いっぱい咲いています。

事務所を構えた目的のひとつは、多くの方に気軽に来ていただきたいという気持ちからです。

どうぞみなさん電話一本お気軽に、そして是非お立ち寄りください。

青葉台駅前事務所 田園都市線 青葉台駅徒歩4分

横浜市青葉区青葉台 2-18-16 スズランハイツ 104 電話 045-500-9151

